

第一回 福原徹演奏会

徹の笛



平成十三年度文化庁芸術祭参加

第一回 福原徹演奏会

徹の笛

平成十三年十月二十六日〔金〕午後七時開演 津田ホール

徹君おめでとう

貴公子のような徹君も、

この世界で少しよこれてきた。

もつと〜よこれる前、

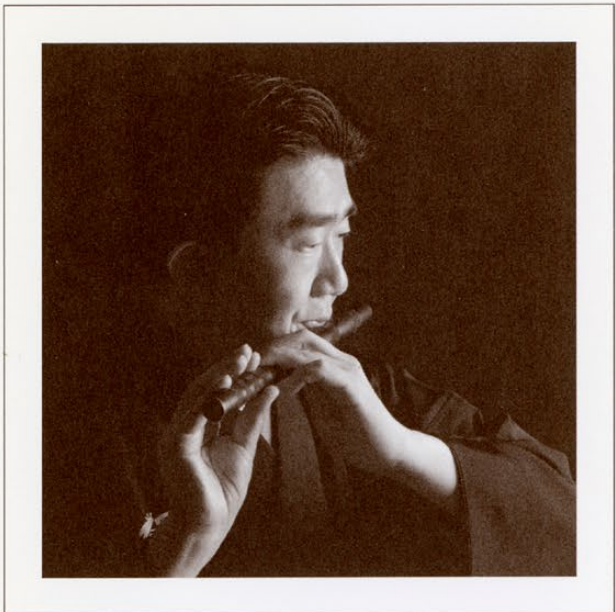
徹君の満を持したりサイタルが

今日、催される。

いろ〜な難関を乗り越えて

無で吹く笛の音を期待している。

寶山左衛門



御挨拶

福原徹

本日はお忙しい中、御来場いただきまして誠にありがとうございます。

四年前、自作品集CDを発表した頃から、いずれリサイタルを開こうという希望を持っておりましたが、どのような会にするか逡巡しているうちに時が過ぎてしまいました。そのような中で今年、二十一世紀最初の年、四十歳を迎えました。今だに何事にも惑ってはかりの私ですが、今が自分の道を確認し、再出発をする時だと決めました。

今回の番組は、独奏、寶先生との二重奏、そして同年代の精鋭の方々との合奏という初演の自作三曲と、古典の義太夫一曲を選びました。

笛には未知の可能性があると信じています。自分に作曲の才能があるかどうかは判りませんが、新しい笛の音楽を作るためには、まず演奏家自身が作曲し、演奏しなければと考えております。

今回唯一の古典曲「関寺小町」は、以前から笛の魅力が生きる曲だという強い思いがあり、また優れた古典の持つ味わい深さを、駒之助先生はじめ皆様のお力をお借りして少しでもお伝え出来ればと願っております。

この会を開くにあたり、寶先生はじめ御助演戴きました先生方、スタッフの皆様のご協力は勿論のこと、多くの方々のお力添えを頂戴いたしましたこと、誠にありがたく存じます。

また文化庁芸術祭執行委員会、新日鐵文化財団の皆様にも厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが今日御来場下さった皆様に、改めて御礼申し上げます。本日はありがとうございました。今後とも変わらぬ御指導御鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

福原徹作曲

うた

〔初演〕

笛

福原徹

福原徹作曲

長い旅

〔初演〕

笛

寶山左衛門〔人間国宝〕
福原徹

休憩

義太夫

関寺小町

三世鶴澤友次郎作曲（三世野澤吉兵衛改訂）
〔花鏡四季寿〕初演（一八〇九年）より

浄瑠璃 竹本駒之助〔人間国宝〕

三味線 鶴澤津賀寿／鶴澤寛也

笛 福原徹

薩囃子 福原賢太郎

休憩

福原徹作曲

千の太陽、万の扉

〔初演〕

笛

福原徹／福原徹彦／福原寛

小鼓 藤舎円秀／梅屋雅一

大鼓 藤舎清之／望月太津之

福原徹作曲
うた

子供の頃、歌うことが大好きでした。七歳からNHK東京放送児童合唱団に入団し教育番組やコンサートで歌い、一方同じ時期に故・七世芳村伊十郎師に出会い、長唄にも惹かれていったのでした。ボーイソプラノの裏声、長唄の地声、どちらの唄も理屈抜きに楽しかったのです。ところが突然、何の前触れもなく訪れた変声。それまで四オクターブ出ていた得意の高い声は一晚で低くなってしまい、その日から全く歌うことが出来なくなりました。その茫然、悶々としていた時、笛に出会ったのです。

福原徹作曲
長い旅

二十一世紀。長い歴史の中で伝えられて来たこと、伝えられていないこと。そして私達が伝えていくこと。

「八月」という曲をCDの中で寶先生に共演して戴きましたが、これは先生の笛の魅力に取り憑かれている私が、どうしても作らずにはいらなかった曲でした。「長い旅」は言わばその続編です。

あと二ヶ月ほどで八十歳を迎えられる先生と、まだ半分の私の二重奏ですが、これからの続編を作り続け、私が八十歳になる頃までには、先生に喜んで吹いて戴けるような曲が出来ようように行こうと思います。

福原徹

義太夫
関寺小町

現在なお、美人の代名詞として親しまれているコマチ。その源である小野小町は、平安前期の王朝歌人で、六歌仙に称えられたほどの才人である。恋の歌など約二百首が知られるが、その経歴や実像には不明な点が多い。

それでも、小町のイメージは、さまざまな説話の中で膨張を続け、のちに七小町と称されるように、能の題材として集大成された。才気と美貌溢れる小町の若く華やいだ側面を描いたのが、「草子洗小町」「通小町」「雨乞小町（または高安小町）」「清水小町」。変わって、老いて落魄した姿を描いたのが、「関寺小町」「卒塔婆小町」「鸚鵡小町」である。

本日演奏される義太夫節の「関寺小町」は、能のそれを踏まえ、近江の関寺近くで侘び住まいする小町が、自身の老残を嘆き、舞を舞うという内容である。原作の能との大きな違いは、僧や稚児が登場せずに、ほとんどが小町の一人称で描かれている点、さらには、「卒塔婆小町」の趣向を取り入れ、深草少将の想い出を行間に巧みに綴っている点である。

深草少将は、小町のもとに九十九度通い詰め、あと一回で恋が成就するという時に息絶えた悲劇の人。三下りの「うつろうもの」からは、少将の怨念に憑かれた小町が舞を舞う。

同じく上方系の地歌や、歌舞伎舞踊で初演された江戸長唄にも「関寺小町」の現行曲が残るが、義太夫節ならではの持ち味は、渋く寂びた、能の幽玄風の趣にあるといえようか。高貴な美女も齢を重ねれば唯の人、という一種の人間の儚さをテーマとしている点で、時代を超え幅広い共感を呼び得る作品である。

初演は、文化六年（一八〇九）二月大坂御霊社内の人形浄瑠璃景事「花競四季寿」の秋の部と伝えられる。当時流行の歌舞伎の変化舞踊に見立てた作で、本曲の他に、春Ⅱ万歳、夏Ⅱ海士、冬Ⅱ驚娘という構成であった。鶴澤友次郎（松屋清七）作曲、三世野澤吉兵衛改訂。

千の太陽、万の扉

福原徹作曲

- 一、千の太陽
- 二、月を見上げる
- 三、星々の間
- 四、地球
- 五、万の扉

例えば静かな秋の夜、満月をふと見上げる時の気持ちは、古の人々と案外それほど違わないのではないのでしょうか。しかし二十一世紀の私達は月が地球を回る衛星であり、空気も無く、兎など住んでいないことを知っています。

私達の住むこの銀河系には一千億個もの星(太陽)があり、しかもすぐ隣りの星までは光の速さで四年もかかる程離れている…。そしてこのような銀河が宇宙には沢山ある…。

恐ろしいほど広大な宇宙に、無数の星々。そのいずれかには私達のような生物がいるかも知れない、とすればいつの日か出会う事があるのだろうか、それ迄に私達は自らの愚かさを乗り越えているだろうか…。

いや、生あるものはこの地球にしか存在していないかも知れない、とすると私達は何と貴重な、重い運命を背負っていることか…。

この地球、実に様々の民族、文化、何十億もの人々が生み出す複雑な社会。さらに数え切れない種類の生きものたち。地球自体がまるで宇宙のように多様性を持っています。その混沌の中で私達はこれからも生き続けて行かなくてはならないのです。

夜空に瞬く星々を見上げる時、私にはその一つ一つが、未来への扉に見えます。宇宙に、そしてこの地球に、開かれるべき無数の扉が、待っているのです。

福原徹

プロフィール(出演順)



四世宗家
寶山左衛門(人間国宝)

一九二二年東京生まれ。父・五世家元 福原百之助より歌舞伎・長唄囃子の指導を受け、囃子方、笛方として活躍。六四年邦楽囃子福原流六代目家元 福原百之助を襲名。六八年国立劇場俳優養成所講師就任。八七年東京芸術大学音楽学部邦楽科客員教授就任。この間、芸術祭大賞、モービル音楽賞、芸術選奨文部大臣賞、紫綬褒章等を受賞。九二年四世宗家 寶山左衛門を襲名。九三年勲四等旭日小綬章受章。重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。社団法人長唄協会監事。



竹本駒之助(人間国宝)

一九四九年大阪にて竹本春駒に入門、竹本駒之助を名乗る。以降、初世豊澤団友、十世豊竹若大夫、八世竹本綱大夫、豊澤小住、豊澤仙平、豊竹つばめ大夫(現 竹本越路大夫)、野澤松之輔等に師事。五十三年人形浄瑠璃因協会奨励賞受賞。七十年現・竹本越路大夫の門人となる。七十四年社団法人義太夫協合理事。八十年重要無形文化財「義太夫節」総合指定保持者認定。八十三年より義太夫協会副会長。八十六年第一回豊澤仙広賞受賞。九十六年第一回駒之助の会発足。紀尾井ホールにて公演。九十六年第二十六回モービル音楽賞受賞。九十九年重要無形文化財保持者認定。



鶴澤津賀寿

一九八四年竹本駒之助に入門。同年三味線を故四代目野澤錦糸に師事。八六年駒之助の義母故鶴澤三生の幼名津賀寿を継ぎ、本牧亭にて初舞台。同年故鶴澤重輝の預かり弟子となる。九一年芸団協助成新人奨励賞受賞。九五年勉強会ひこばえ発足。社団法人義太夫協合理事。第十一回豊澤仙広賞受賞。九十六年第四十七回芸術選奨文部大臣賞新人賞(古典芸術部門)受賞。九十七年第十一回清栄会奨励賞受賞。九十九年第四回ビクター財団賞受賞。

鶴澤寛也



東京都出身。一九八四年故鶴澤寛八に入門、寛也と名乗る。八五年初舞台。九三年寛八没後、豊澤雛代の預かり弟子となる。九四年芸団協助成新人奨励賞受賞。その他、因協会奨励賞など受賞。(社団法人)義太夫協会理事。

福原賢太郎



一九七五年常磐津文字藏(一中節家元・都一中)の長男として東京に生まれる。九一年祖父である福原流囃子方・寶山左衛門に師事。同年望月太喜雄に師事。長唄を東音浅見文子に師事。九三年福原流笛方・福原徹に師事。九四年NHK学園高等学校を卒業。以降、囃子方として邦楽演奏、舞踊会などで演奏活動を行うほか、レクチャーコンサートやライブハウスでの演奏にも積極的に参加している。

福原徹彦



一九六三年東京生まれ。七三年六代目福原百之助(現 四世宗家 寶山左衛門)より笛の指導を受ける。七七年福原百之助「笛の会」にて「嵯峨野秋霖」を助演、以後毎回助演。八十年福原徹彦の名前を許される。八一年江戸囃子を若山胤雄、三味線を東音田島佳子に師事。八三年東京芸術大学音楽学部邦楽科別科修了。笛方として歌舞伎、舞踊会、長唄演奏会等で幅広く活躍。東京芸術大学、NHK文化センター講師。九八年国立劇場に於いて第一回リサイタルを開く。

福原寛



人間国宝 四世宗家 寶山左衛門に師事。一九九〇年東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業。九二年同大学院修士課程修了。現在、長唄演奏会、歌舞伎、日本舞踊、海外演奏、TV、ラジオ放送など演奏を中心に活動。国立音楽大学講師。長唄・囃子「藍の会」講師。横笛「苑の会」を主宰。九九年第二回ジョイントリサイタル「笛と唄と」(名古屋中電ホール)において名古屋芸術祭審査員特別賞を受賞。

藤舎円秀



一九六一年二月十三日広島市に生まれる。十才の頃より、邦楽長唄囃子を藤舎流・藤舎呂秀に師事。初舞台は十二才、親鼓会にて長唄「望月」の太鼓を演奏する。そのうち、十八才で東京芸術大学邦楽長唄囃子別科に入学、本格的な修業にはいる。八七年二十六才の時、「藤舎円秀」の名取りを許される。現在では歌舞伎公演、海外公演、舞踊会、長唄演奏会などで活躍をしている。

梅屋雅一



六歳より梅屋右近(父)に師事。長唄は、吉住小智津に師事。一九八七年より幸流 亀井俊一に師事。八九年東京芸術大学卒業。現在、日本舞踊会、長唄演奏会に出演。

藤舎清之



一九八四年藤舎流宗家 藤舎せい子に師事。八六年藤舎清之の名を許される。古典を中心に舞踊会、演奏会、歌舞伎等で活動。

望月太津之



一九六七年東京生まれ。七七年望月太津三郎に入門。九十年東京芸術大学邦楽科卒業。同年望月流家元より望月太津之の名前を許される。邦楽囃子飛翔会同人。歌舞伎公演、舞踊会、NHK、長唄演奏会等に出演。

昭和三十六年東京に生まれる。四世宗家寶山左衛門（六世福原百之助）に師事。

同五十五年東京芸術大学音楽学部邦楽科（長唄囃子専攻）入学。

同五十八年「福原徹」の名を許される。

同五十九年東京芸術大学卒業後、邦楽囃子笛方として国立劇場などの長唄演奏会、舞踊会などで演奏活動が続けるほか、NHK大河ドラマ、邦楽番組等、ラジオ、TVに出演。

東京と浜松にて門弟の育成にもあたり「百笛会」を主宰。東京青山NHK文化センター、NHK浜松文化センター講師。また市民大学講座等の演奏、講演を通じ日本伝統音楽や笛の啓蒙活動に努める。平成十年より三年間、静岡県立浜松江之島高校芸術科に於て全国で初めての笛専任の非常勤講師を務める。また本年度は、清泉女子大学非常勤講師として日本文化論の集中講義を担当。

福原徹

従来の劇場における伝統的な形式以外にも様々な演奏会に取り組みサントリーホール主催「和の響」、世界吹奏楽大会「ジャパンデーコンサート」等に出演。また東京都大田区洗足池公園「春宵の響」、静岡県熱海市梅園「ほたる観賞の夕べ」、群馬県笠懸野文化ホール主催「日本の調べ」、愛知県県民大学講座「日本の横笛」等では、演奏のほか構成、制作協力も務める。海外では、昭和六十三年ニューヨークタウンホール、平成元年ワシントン州タコマコミュニティカレッジ、同五年ロスアンゼルス日米劇場、同八年ボストンコンサバトリ、バークリー音楽院、同十年ルクセンブルク日本大使公邸、英国ケンブリッジ州セントガステイン教会、同十二年ナッシュビルTPAC、ブレア音楽院にて演奏。

古典邦楽の演奏に限らず新しい作品にも意欲的に取り組み、国立劇場主催公演「明日をになう新進の舞踊邦楽鑑賞会」「日本音楽の表現」「現代日本音楽の展開」等に出演。

また平成四年頃より笛を主体とする曲作りを始め、同七年サントリーホールにおいて自作品を演奏。同九年様々な邦楽器を用いた作品集CD「徹」を発表、「レコード芸術」「邦楽ジャーナル」「邦楽の友」

「ラ・セーヌ」各誌、「邦楽ディスクガイド」（音楽之友社刊）等に取り上げられる。

同十二年邦楽界有志により結成された作曲研究会「創邦21」作品演奏会に同人参加。

制作 福原徹

制作協力 宮澤伸行

協力 (有)古典空間

舞台監督 クリエイションコンサートサービス

舞台コーディネート 清野正嗣

デザイン 大平デザイン事務所

写真 山之上雅信

